

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	名古屋大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ナゴヤダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F123110106429
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	愛知県
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	科目名	国内実地研修
	学部・研究科等名	農学部・生命農学研究科
	担当教職員名・役職	野田口 理孝・准教授
	受講者数実績年度	令和3年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	26
	受入企業等数	1
	受入企業等名	JAあいち経済連
	インターンシップの分類	10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	農業生産活動およびそれを支える国・地方自治体の支援事業の現場を体験する。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 5.当該インターンシップは、選択必修科目として実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部3年 大学院 修士1年
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 1単位 大学院 1単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細	講義・実習で学んだことと農業生産との関連を理解すること。
	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	

要素③	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	学内のインターンシップ研修会への参加を義務としている。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	インターンシップ報告書、アンケートの提出、事後報告会（研修受入先担当者臨席）としている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	モニタリングは実施していない。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	4.その他
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	事後レポートの提出、事後報告会で2年次生に対する成果発表。
	4-3.上記回答内容に関する詳細	
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
		2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	実施期間5日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	実施期間7日間（うちインターンシップ実施期間5日）
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
5-3.上記回答内容に関する詳細	事前インターンシップ研修会+実習5日+事後報告会 計7日間	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している
		2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
6-3.上記回答内容に関する詳細	事後報告会には受入先担当者が臨席している。また提出する報告書は受入先担当者に提出後、大学（農学部就職担当職員）へ提出となっている。（受入先の部・課によって提出を求められない場合もあり。）	

	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://syllabus.adm.nagoya-u.ac.jp/data/2021/09_2021_X320000922016.html
問い合わせ先	大学等名	名古屋大学
	担当部署名	農学部 教務学生係
	担当者役職名	事務補佐員
	担当者氏名	加藤 ありさ
	電話番号	052-789-4299
	メールアドレス	nou-kyomu@adm.nagoya-u.ac.jp